令和7年6月

「ハラスメント撲滅に向けて」

公益財団法人全日本剣道連盟

会長 真砂 威

剣道は、長年にわたり形成され、それぞれの時代に価値を見出し発展してきた貴重な日本の伝統文化である。そして剣道は、その発生から「人が生きていくための指針」として考えられ、優れた全人教育の方法として確立されたものである。「剣の理法の修練による人間形成の道」こそが『剣道の理念』であり、『剣道修練の心構え』には「以って国家社会を愛して広く人類の平和繁栄に寄与せんとする」ことが明記されている。

しかし近年、少子高齢化が進展する一方でスポーツ界におけるハラスメント行為が顕在化し、剣道においても少なくない苦情や訴えが寄せられている。一部の悪しき事例により、それまで先達に培われてきた剣道に対する社会的信頼が崩壊し、剣道人口が激減する事態が懸念される。暴力やパワハラ、セクハラなどの行為は人間の尊厳を否定するものであり、根絶しなければならない。特に、教え子を自死に至らしめたり、熱中症等により命を失わせた不適切な指導は、二度と繰り返されてはならない。

ハラスメントを根絶するために、優位な立場にある指導者は自らの指導が人間形成の道にかなっているか問い続ける必要がある。その指導法については、社会の価値観の変化に応じながら、指導者の剣道観や技量と経験、さらには指導を受ける側の特性や要望を踏まえて行われる必要があり、師弟同行の心構えで修練に臨んで頂きたい。

剣道に関係する皆さんがコミュニケーションを図りつつ、ハラスメントを決して許さない環境づくりを目指すことによってこそ剣道の健全な発展が実現する。全日本剣道連盟は、ハラスメント行為を断じて許さないものである。

以上